

学びの風便り

リーディングスクール通信 45 R7.6.30

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



学びの改革のあゆみ 寿小学校・リーディングスクール・ラボ 1



* 寿小学校 子どもも先生も「さあ！やってみよう」主体性を育む寿小の挑戦

2年間のリーディングスクール校としての実践と経験を活かし、自由進度学習「マイプラン学習」をより一層深化させる取組みを進めている寿小学校の今年度の展望を紹介します。

「さあ、やってみよう」～主体性を育む授業づくり～

寿小学校ではこれまで、子どもが主体的に学び、自分の言葉で自由に表現できる授業づくりに取り組んできました。様々な実践から「さあ、やってみよう」「子どもに委ねる」をキーワードに、表現に苦手意識のある子も自ら考えをもち、発信する力が育ちつつあります。授業づくりの工夫を通して、子どもたちの主体性が引き出されつつある様子が見られます。



教材について相談する先生方

単元内自由進度学習「マイプラン学習」からみえてきたこと

子どもの主体性を伸ばそうと全学年で実施してきた単元内自由進度学習「マイプラン学習」。この学習を通して、子どもが自分の理解度や興味に合わせて教材を選んだり、学習の進め方や時間を調整したりしながら学びを進める姿が見られました。子どもたちからは「楽しい」「もっとやりたい」という前向きな反応が多く、学習意欲の高まりが感じられました。一方で、子どもたちの達成感や満足感が必ずしも学習の定着につながっているわけではないことも課題として見えてきてきました。「さあ、やってみよう」とチャレンジしたからこそ見えてきた課題です。学習の定着に結び付く教材づくり等のさらなる工夫が求められていると考えています。

「自分でやりたい!」「こうしてみたい!」自ら動き出す子どもたち

6月30日、松本市幼年教育研究会が寿小学校を会場に行われました。「さあ、やってみよう」を合言葉に積み重ねてきた今までの実践をもとに、低学年部会では、園



小のスムーズな接続を願い「スタートカリキュラムの作成」と「単元内自由進度学習（マイプラン学習）」の2つを柱に研究

を進めてきました。研究会では2年生の「マイプラン学習」（国語と図工）の授業を公開しました。授業が始まるとすぐに自分の活動したい場所へ移動し、自分の学習カードを見ながらどんどんと活動する姿がありました。「楽しかった」「次の時間は〇〇をする」「計画したところまでできた」など子どもたちの感想からは、マイプランをもとに充実した学びの時



間となったことがうかがえました。

先生たちも「さあ！やってみよう」授業のさらなる深化！

子どもたちはこれまでの学びを通じて、自ら選び調整して学習する経験を重ねてきています。先生方からは、今年度「もっと子どもに委ねる」ことや、「子どもの願いや問いに寄り添う授業」について具体的な取組を考えていきたいという前向きな声があがっています。今年度は、「マイプラン学習」での子どもに委ねる実践の一層の深化と共に、一斉授業においても「子どもに委ねる」場を多く取り入れ、子どもの思いや願いに応える授業づくりを目指します。授業のさらなる深化を求め、「さあ、やってみよう」と先生たちはトライし続けます。



第1回リーディングスクール・ラボ

一緒に考えよう 実践校の取組！ ～ チューニングにチャレンジ ～

6月12日(木)第1回リーディングスクール・ラボが教育文化センターを会場に開催されました。当日は、市内小中学校33校から76名の先生方が参加しました。リーディングスクール校・アソシエイト校・県の学びの改革リーディング校・TOCO-TON実践校の計25校の学校づくりの取組について、「チューニング」(軽井沢風越学園で開発されたプロジェクト等の検討手法)を活用し、全員で考え合いました。

今回のラボの目的は、次の2点です。

- ①実践校の取組に学ぶと共に困り感や課題を共有し、発表者が新たな視点やアイデアを得る機会とする
- ②参加者がチューニングに参加し、全員が当事者として考え合う手法のよさを体験し、自校での活用に向けた意欲をもつ

チューニングで大切にしたいこと！ ～ 一人一人の考えを大切に フラットな関係 ～

最初に堀内指導主事よりチューニングの説明及び話し合いで留意すべき点(ファシリテーターの役割、一人一人の考えを大切にすること、フラットな関係の重要性など)について説明がありました。その後、アイスブレイクを経て、参加者76名は10ブースに分かれ、2回のチューニングを行いました。発表者は、自校の取組について一緒に考えてほしい「問い」を明確にし、端的に発表しました。参加された先生方は、発表者の思いに寄り添い、当事者意識をもって、少しでも発表者の参考になるよう真剣に考え、自分の言葉で思いを語り合いました。

先生方の様子から ～ 場をみんなで創り上げよう ～

各ブースには、校長・教頭・研究主任・講師などさまざまな立場の先生方が参加していましたが、立場を超えてフラットに考えを語り合う姿が印象的でした。1回目のチューニングを終え、2回目のチューニングになると、先生方の言葉はより洗練され、豊かな交流が生まれました。会場は、実践校の「取組のすばらしさ」や「その意味」を自分なりに見出そうとする姿勢、「場をみんなで創り上げよう」という温かい空気に包まれていました。発表者、参加者ともに自分事として考え語り合う「チューニングのよさ」を味わっている様子が伝わりました。



後日、参加された先生方から深く豊かなリフレクションをいただきました。参加者も傍観者ではなく、発表者の思いに寄り添い、悩みを共有しようと一緒に考える「チューニングのよさ」について、多くの先生方からフィードバックをいただきました。また、「多くの先生方を巻き込み、アイデアを広げる場」として、自校でもチャレンジしたいという思いも寄せられています。チューニングをはじめとした「チャレンジの輪」が多くの学校で広がっていくことが、楽しみになりました。

「先生方から豊かなリフレクション」

- 初めてチューニングを行いました、とても有意義な時間でした。普段中学校にいと見えてこない小学校の先生の葛藤や悩み、それを一緒に考えられたこと、そして私たち中学校の悩みや葛藤を寄り添って考えてくださったことがまず「私たちは校種も、所属校も違うけどチームなんだな」と感じ、嬉しかったです。それぞれの学校の想いと生徒・児童への関わり方を「知る」ことがとても大切だと思います。知るから考えられる。そんな当たり前のことの大切さを今回のラボで、肌で再確認できました。
- チューニングをして、発表者はとても「お得」だなと感じました。悩みを一緒に考えてもらえることや、レスポンスでは自分の思いをアウトプットすることで自分の思いや言葉になることを実感できました。また、レスポンスでは、自分の考えとその場で感じたことを比べたり、まとめたりして「考える」ことができました。……これからも対話の時間を大切にしながら推進していきたいです。
- 私は5年目でまだまだ経験が浅い中だったり、性格上のこともあり、自分は言ってもいいのだろうか、まだ明確になっていない考えをどう表現したらいいかな、多くはしゃべれない些細なことだから言わないでおこう、などいろいろと考えてしまうことが多いです。ただ、始まるまえの「立場関係なく話すこと」や「聞くときのルール」などを改めて聞いて、様々な立場からの考えが深めていくためには必要であることを改めて思いました。また、チューニングでは発表を聞いてから質問する時間がとられていたこともあって、気になることを聞いたうえで自分の想いを伝えることができました。…発表者の方が最後のお話で自分の伝えた考えにも触れて語ってくださったことで自分ならどうしていくかと考えることもできました。

- 研究を推進する上で、「いかに多くの職員を巻き込んで進めていくか」が鍵になると感じました。一人ひとりの先生が授業改善を自分事として捉え、自らの実践を振り返りながら前進していける体制づくりを、今後さらに整えていきたいと思います。また、今回初めてチューニングを体験しましたが、誰一人として傍観者になることなく、発表者の課題に対して多角的な視点から意見が交わされたことで、解決に向けたアイデアが広がる場となりました。短時間でも大きな効果を感じられる方法であると感じたので、本校でも活用していきたいです
- 今回初めて、プロジェクトチューニングという手法を用いてのディスカッションを経験したが、実践校からの発表を受けて、自分が感じ取れなかったところを他の先生から気づかされたり、自校に照らし合わせて実現可能なアイディアにもつなげられたりするなど、より実践形式なディスカッションを体験することができた。自校でも取り入れてきたいと感じた。
- チューニングを実際に体験し、具体的な方法を知り、自校の職員研修や授業等での子どもたちの活動にぜひ生かしてみたいという思いをまず持ちました。相手を否定せず聞く姿勢の大切さと共に、限られた時間の中でいかに自分の考えを伝えるか、また、他の先生方の意見とどうつなげて表現しようかなと思考したりすることを体験することができたと思います。ファシリテーターを務めることとなり、チューニングの中で実践校の先生の引き出しがどんどん増えている（更新も）ことを感じることもできました。大変有意義な体験となりました。
- 実践校の取り組みを教えていただきながら、自分たちの学校の今の位置を知ることができました。…チューニングをすることで、バラバラな考えや意見が自然と合わされていくのを感じました。バラバラのピースがはまるように、ギザギザだったものが平坦化されていくような感覚でした。このグループでは「主体性ってなんだろう」と問いが一つに定まっていきました。また小学校中学校ではそれぞれで悩みが違ふこともわかりました。特に学ぶ教員集団の作り方についてはこれから考えていかなければいけない大切なことと思いました。
- チューニングを初めて行いました。進め方を丁寧に説明してくださり、進行を補助する映像もたいへんわかりやすく、戸惑わずに行うことができました。テンポやリズムがとても心地良かったです。初めて顔を合わせる方ばかりでしたが、皆が発表者を尊重し、葛藤と一緒に考えたいことに寄り添っていることで、気持ちよく充実した協議ができました。たいへん良い経験になりました。ありがとうございました。
- チューニングを初めて知り、初めて実践しました。よく自由な意見発表会だと、それぞれが好きなことを話し、問題から逸れていき、何を話し合っていたかわからなくなります。しかし、チューニングは、時間が限られていること、話す場（や人）が限られているので、問題が明確化されて、話が逸れていかなくてよいなと実感しました。ディスカッションの際、発表者がグループの輪に入らないことも、聞き役に徹することができて、たくさんアイデアを聞けるので、参加者全員が有意義な話し合いになることを実感しました。
- チューニングの良さを改めて感じました。発表者の実践→課題としたいことを聞いたうえでグループのディスカッションとしたとき、発表者が聞く側に徹することでより良い意見や新たな考えを聞き取ることができます。対話になってしまうと、発表者が都度答えていくことになりませんが聞くに集中すると、自分の思いを振り返りながら整理できるように感じました。自校では、生徒指導や探究の仕方についてチューニングできれば、それぞれの先生方に返すことができるとともに、互いの考え方を深められたり視野を広められたりできるのではと感じます。…先生方のお考えや思いを聞くことで、自身の引き出しも増えた気がします。子どもたちへの想いは、学校が違っても同じなんだと。…
- …同じ課題意識を持つ方が集まっていたので、上辺だけの語り合いにならず、私の問いに対してチューニングをしてくださる先生方が、本音を語る姿があり、熱のある言葉をいただけて嬉しかった。また発表者は、自分の問いと話し合われている内容を客観的に見たり、参加者の目で複眼的に見てもらったりすることにより、自分がとらわれていたことに気づけたり、新たな方法や価値を知ることができたりと大変有意義な時間になった。…チューニングは生徒指導のアイデア出しにも使えそうだと感じた。担任が暗く苦しくならず、心配な子をみんなで共有し、解決へのアイデアを出せる良い時間をチューニングなら作れそうだと感じた。やってみたい。

